

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
フロンティア人工物分科会(第26期・第9回)
議事要旨

日時: 令和8年7月13日(月)15:00～17:00

場所: 日本学術会議6-C会議室(1)及び zoom によるオンライン

出席者: 宮崎 恵子(以上会員, 五十音順)、石川 拓司、伊藤 恵理、伊藤 宏幸、大林 茂、
河合 宗司、川口 慎介、佐宗 章弘、鈴木 真二、戸上 健治、中谷 和弘、中谷 武志、
藤井 孝藏、松尾亜紀子(以上連携会員, 五十音順)、佐藤 徹(以上連携会員(特任))
欠席者: 坂東 麻衣、藤田 修、向井 千秋、大和 裕幸(以上連携会員, 五十音順)

議題

- (1) 前回議事要旨確認
- (2) 意思の表出について
- (3) 人材育成関連
- (4) 次期の準備等
- (5) その他

配布資料

- 資料1 第26期第8回フロンティア人工物分科会議事要旨
- 資料2 (報告案) 海底下地層における二酸化炭素貯留施策推進の課題
- 資料3 第24期見解「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 総合工学分野～社会課題に立ち向かう総合工学分野の人材育成～」
- 資料4 法人化に向けた検討状況(4月9日総会資料)
- 参考資料1 第26期フロンティア人工物分科会名簿 260423 更新
- 参考資料2 意思の表出に関する査読プロセス(見解・報告)

議事

1. 資料1に基づき第26期第8回フロンティア人工物分科会の議事要旨が確認された。第8回の議事に関連して、未来の学術振興構想の現在の状況と今後の査読等の予定について、委員長から説明があった。

また、委員長は、参考資料1の名簿で所属の更新等を説明した。追加の更新が必要な委

員は委員長に連絡する。

2. 意思の表出について、参考資料 2 に基づき、第三部の意思の表出の査読プロセスについて、委員長から説明があり、資料 2 の報告案の査読状況も示された。

さらに、委員長は、第三部査読のコメント票に基づき、回答の方針及び知見を持つ委員との回答作成状況等を説明した。回答についてコメントがある場合は、7/16(木)までに委員長に連絡する。

3. 人材育成については、第三部理工系博士人材育成分科会の記録の執筆状況及び本分科会からの貢献等を、委員長が説明した。

さらに、当該記録の第 V 章「分野毎の博士人材を取り巻く現状と課題・取り組み例」には本分科会の主たる親委員会である総合工学委員会からも原稿を提出していること及び当該原稿は資料 3 に基づいていることが、委員長から紹介された。資料 3 を取りまとめた分科会及び小委員会の委員から内容等について追加説明があった。

4. 次期の準備に関しては、次の通り。

- (1) 日本学術会議の法人化については、資料 4 を用いて、委員長が特に報告を要すると考えた箇所を説明した。
- (2) 現時点の日本学術会議憲章案を、委員長が、資料 4 とも比較してその意義も含めて説明し、7/16(木)までに回答フォームでの意見提出を案内した。
- (3) 本分科会の今期のテーマである人材育成と国際連携については、今期末までに全委員の意見を入れた形で、内部資料としてまとめたい旨を委員長が説明した。
- (4) 次期の体制(主たる親委員会である総合工学委員会からの会員の参加の確保、小委員会の設置の可能性等含む)について、委員長は現時点の考えを説明した。次回、議論する予定である。
- (5) 新たな分野別委員会・課題別委員会としてテーマに上がっていた資源安全保障については第三部等で特に進展はないことが、委員長から報告された。本分科会での前回審議のまとめは、次回、報告される予定である。

5. 次回は、8 月下旬から 9 月上旬の間にハイブリッド開催する方向で日程調整することを委員長が説明した。なお、次回が今期最終となる予定である。

以上